

「不登校やひきこもりの初期介入支援助成事業の研修会に参加して」

小林市社会福祉協議会 深海・東原

このたびは興味深い研修を開催くださり、ありがとうございました。

私は訪問看護師ではありませんが、ひきこもりや孤独・孤立対策について社会福祉協議会職員として支援を行う身です。

全3回の研修会を通して気づいた点を挙げていきます。

第1回の峯上先生による自身の経験談を交えた講演でとても興味を惹かれました。

自分自身学生時代、社会人時代に短い期間ですがひきこもりを経験しています。その頃の家族が どう感じていたのか、学校側がどう考えて動いていたのか、今になって気になるところです。

訪問看護師の訪問は服薬管理や身体介護などのイメージがありましたが、不登校、ひきこもり当事者への訪問で当事者の生活リズムや体調を整え、社会とのつながりを構築することができることを知り、訪問看護との新たな連携方法を考えることができ、アウトリーチの重要性を感じました。

第2回の田邊先生は不登校になる心理、トラウマインフォームドケア（TIC）の重要性について教えていただきました。

学校生活のどこかで、何かが引き金となり学校に行けなくなった当事者の心理を理解し、関わっていくことは根気のいる支援であると思います。TIC を理解した支援は「引っ張るのではなく、底を支える」との言葉に感銘を受けました。主体は本人であり、本人が自分と向き合いどうなりたいか・どう変わりたいか、背中を支えながら 一緒に考え支援することが重要な姿勢であると実感しています。

支援では原則として「否定しない」態度と言われ、自身の普段の支援態度がどうかであるか見直す機会にもなりました。

第3回の山根先生の講演では、ひきこもり支援=家族支援であり、まずは親のケアから始めること、本人・家族と細く長くかわりつなぎ続けること、「親ですら理解できないのに社会から理解してもらえないわけがない」とのお話に感銘を受けました。

当事者に目が行きがちですが、現状の原因を作ったかもしれない、これまで何とかしようと努力してきたかもしれない家族を置いて支援はできません。家族の中の土台を作り、当事者を理解して向き合い、細く長くつなぎ続ける支援は福

社の基本と言えるかもしれません。

また、さらに地域住民が自分たちの地域の現状を知ること、安心して過ごせる環境・安心してひきこまれる居場所を構築することも社協ができる地域づくりであると感じました。

全3回、参加させていただきありがとうございました。